

『北国文化』総目次(下)

一月号（第四十八号）昭和二十四年十二月三十日発行

戦後課題再検討	太宰の司祭者らに与う―自殺について―岩倉	政治	3
自殺について	安藤 孝行	8	7
デカダンについて	大沢 衛	12	11
戦後学生論	山田 琢	17	20
新人・旧人―沢木欣一、岩倉政治		21	
若き世代の発言（☆座談会、中村静治・乾満寿子・沢木欣一・加藤勝代・山下七志郎・西義之）		22	33
作品寸評		34	35
最近のドイツ報告	山田 四郎	36	40
東京風物誌(2)	小松 伸六	41	47
緑の由来（☆詩）	本郷 喬	48	
女の手（☆詩）	シュトルム 山口四郎訳	49	
平衡感覚		50	51
文芸時評	加藤勝代・西 義之	52	53

破壊的批評精神について	吉田 六郎	69	90
懸賞募集小説・中間読物―選考結果―		60	68
選後評		56	59
ルポルタージュ・死刑囚から帰国まで		55	54
流亡以前（☆小説）			

二月号（第四十九号）昭和二十五年一月三十日発行

文芸放談	桑原 武夫	3	10
芸術家と郷土―ふるさとの匂い―ロベルト・シンチンゲル	深田 久彌	11	14
北国文化作品寸評（☆西敏明「流亡以前」）		15	
ショパンについて―音楽ノート―	北村 竺	16	17
協同組合の父ロバート・オウエンの生涯	浅井喜久雄	18	24
映画とスポーツ	松本 金寿	25	
続灰色の女たち―大宮御所の内幕―	小森三千代	26	30
肌膚（☆詩）	太田 良作	31	
平衡感覚（☆岩倉政治氏の疑問）	西 義之	32	36
新人・旧人―戸田正三、中村静治		37	

森 英 一

文芸時評

懸賞小説選後評・正誤訂正と追加

熱い唇(☆小説)

傷痕(☆小説)

後記

森山 啓

山下七志郎

山本 国光

西 義之

痴と減びと

後記

中村喜久男

66
86

四月号(第五十一号) 昭和二十五年三月三十日発行

二十世紀文学の宿命

風俗小説論

次代の新人群

詩論『海についての走り書』

文学的俗常識について―西さんへの返辞―

戦後文学の展望

女流随想集

聖アントワーヌの誘惑

早春

祖父への抵抗

父三宅雪嶺の思い出(続)

映画と私

ブランデン先生のこと

江戸時代の男色文学

居成事件白書

病中日誌

地方文壇展望・強い北国人的魂(☆転載)

新人・旧人自画像―伊藤武雄、西敏明

四高よ・さようなら(☆文と絵)

孤愁(☆詩)

平衡感覚・風のたより

文芸時評

北国文化作品寸評

66
86

佐伯 彰一

内海 伸平

亀井勝一郎

本郷 喬

岩倉 政治

高見 裕之

23
27

沢木 綾子

門野 高子

三宅美代子

竹本 員子

大沢 衛

深井 一郎

大野 勝雄

松本文之丞

深田 久弥

55
60

山下七志郎

62
6364
6566
6768
69

70

三月号(第五十号) 昭和二十五年二月三十日発行

座談会・職場・恋愛・結婚―若き女性の発言(☆出席、瀬川美津

子・竹本員子・深沢喜代子・梅村藩子・西家富栄)

海外文芸短信・八十になったジイド

ニーチエの女性観

青春について

ショーペンハウエル女性の女性観

ゲートの女性観

三人の女流作家―美美子・たい子・百合子―

農村の娘たち

父三宅雪嶺の思い出

チェーホフの生誕九〇年祭(☆記事)

新人・旧人―門野高子、竹本員子

湯川先生のことども

ショパンについて―音楽ノート(2)―

協同組合の父ロバート・オウエンの生涯(2)浅井喜久雄

書評「ショーペンハウエル『愛と生の苦悩』」

平衡感覚・女性についてなど

文芸時評

北国文化作品寸評

本郷喬詩抄

38
3940
4142
4359
79

80

3
12

12

13
1717
2218
2223
2829
3334
3536
40

40

41

42
4647
4849
5556
5859
6061
6263
6564
6566
6768
69

70

橋本桂子の遺書（☆小説）
後記加藤 勝代 71
西 義之 82

五月号（第五十二号）昭和二十五年四月三十日発行

ルポタージュ特集

さまよえる魂・松原病院探訪記

西 敏明 3
中村喜久雄 8

金沢・鳩の町

西 義之 13
谷野みつい 19

ストリップ・ショーの人たち

小松 伸六 22
青木 治朗 28

野田平和町の横顔

毛藤 一雄 36
谷口 陸男 40

刑務所の昼をゆく

早川 明 45
増村外喜雄 50

蓮如覚書

山田 清 52
栗津吟太郎 54

中間読物・馬賊

樋口 昭子 67
加藤 88

見知らぬ文学青年の手紙―フランス精神の流行について―

不遜なる感想―ちかごろの小説―

初冬の音楽（☆詩）

愚直詩集

平衛感覚―先生方の行方

夜のカリキュラム（☆小説）

夜明け前（☆小説）

編集だより

六月号（第五十三号）昭和二十五年五月三十日発行

オルダス・ハックスリへの手紙

佐伯 彰一 3
佐伯 彰一 6

佐伯彰一への返事

オルダス・ハックスリ

あとがき

佐伯 彰一 8

簡素は単調ではありません―日本文化雑感―
暴力について

石川県における平和運動（☆記事）

白鳥論ノート

森山 重雄 18
塚本 貞二 26

石川文化懇話会総会（☆記事）

英国風物誌

内科医の診察室

蛙（☆詩）

取次商売繁盛記

座談会・判検事大いに世相を語る（☆出席者、山田義盛・小山市）

次・沢田哲夫・竹中義郎・米光哲・木戸光男

杏の実（☆詩）

日常（☆短歌）

世界名作ダイジェスト（☆「ヴィルヘルム・テル」「青い花」「ジェン・エアー」「キャンタベリー物語」「人形の家」）

文芸時評

書評・「失われたる王国」「マゼラン」

愚直詩集のこと

天理教地帯をゆく

水蜜桃（☆小説）

編集後記

七月号（第五十四号）昭和二十五年六月三十日発行

思い出特集

父赤彦を偲ぶ

父雪嶺母花園

菅原 みを 3
三宅三代子 6

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父雪嶺母花園

父孤村のこと	片山 泰雄	10
「島清」と青春	林 正義	12
麻生種衛と私	倉本 兵衛	15
同人雑誌のころ	岩崎 修	17
中野重治と老女	内海 伸平	21
尾崎翁の真意	野村 広	24
青春・文学・天皇・平和―窪川鶴次郎大いに語る―		25
金曜文化講座第八期・法経講座開催		31
特集・転形期と知識人		
反動期におけるインテリゲンチアの姿	鷺尾 順義	32
インテリと教養俗人―ニーチェ的インテリ論―		37
金沢インテリ論について	秋山 英夫	38
脱党について―非告白的告白―	安藤 孝行	42
失業転々	山原 敏	44
書評「概説現代日本文学史」	中田 久雄	48
「自伝・幸福のペール」		51
保母日記	国本 愛子	52
劇評・「桜の園」を観る	杉本 正夫	55
母子寮訪問	安村 外志	56
座談会・日本映画は何処へ行く(☆出席者、伊藤武郎・清水晶・鈴木紀子、編集部)		57
文芸時評・小説は誰のために存在するか	窪田 敏夫	58
春水招荷風		66
書評「ドイツ抒情詩集」		69
「石川県の歴史」		70
智慧の果(☆詩)	木戸 逸郎	71
たんば(☆詩)	浅井 徹雄	72
無風圏(☆小説)	堀川 浩二	73
編集後記	小松 伸六	74

八月号(第五十五号) 昭和二十五年七月三十日発行

小説特集

雨の日のあらしい

帰郷

日時計

石川平和問題懇談会結成(☆記事)

灰色の壁に(☆短歌)

文学サークル紹介―文芸誌「山峽」

アメリカ雑誌

結婚の自由

夏鶯(☆俳句)

リルケについて

勤と闘志

骨董エレジー

山にかかわる二十五年―旧四高旅行部回想―神保 龍二

総合雑誌評・七月号

海の季節(☆詩)

私たち(☆詩)

バナナの歌(☆詩)

文芸時評

百姓一揆の指導者たち

編集後記

九月号(第五十六号) 昭和二十五年八月三十日発行

最近の天野倫理学の傾向と批判

戸頃 重基

森山 啓

中村喜久男

宮田 栄

山崎都生子

梶 圭之助

島津 一郎

木沢 光捷

森 晋六

松本 金寿

乾 満寿子

小林 一雄

和沢喜美枝

もりたみのる

若林喜三郎

小松 伸六

77

75

76

74

71

70

65

62

59

56

48

43

3

ジュリアン・グリーンについて―人間は復活し得るか―

高見 裕之 18 3

狐になった奥様―D・ガーネット小論―

上田 和夫 25 3

それでこそ先生といわれる

木羽 敏泰 30 3

書かれざる特ダネ―第一線新聞記者座談会―（☆出席者、小島甫・長丸市次・大野勝雄・石林文吉）

33 3

朝鮮風物誌

41

回想の故郷―日本帝国主義下のころ―

沢木 欣一 42 3

仙逸の国―白の印象―

岩崎 二郎 44 3

北国文化能登へゆく

北国文化同人 47 3

声（☆詩）

堀内助三郎 17 3

詩（☆原毅、宇波浦）

29

亡児・亡妹（☆短歌）

大谷 秀雄 54 3

書評「世界史入門」

55

伝説と詩の国

旭岡 平吉 56 3

叙陽（☆詩）

早川 明 58 3

夏から秋へ―北陸の山と谷―

田村 実 60 3

秋想（☆短歌）

上山 南洋 62 3

悲歌（☆短歌）

乾 満寿子 63 3

暗い星（☆小説）

西 敏明 66 3

黒い炎（☆小説）

加藤 勝代 76 3

編集後記

小松 伸六 92 3

十月号（第五十七号）昭和二十五年九月三十日発行

ヨーロッパ文学特集その一ドイツ文学

ヘッベルの素姓の問題

文学に現われた中世の理想人間像

小原 度正 3 3
藤井 智瑛 7 3
11 6

ドイツ文学と日本文学

ニーチェの祈り

ゲーテの現実

歌のたましひ

ソヴァイ・トロイメー訳詩雑感―

雲と花

鷗

トーマス・マンと自然主義

本屋商売往来（☆座談会、出席・市内五書店主）

手取川筋の観察

忘れられた村・珠洲郡西海村ルポ

編集者の問題・新しい直木賞の作家（☆記事）

小紅低唱我吹簫

昼間里親物語

放送新米日記

東のたより・西のたより

東北

中国

アンデルセンの憂愁

鎌倉の悲劇―インテリの敗北―

レーゲル・アムウイン夫人とその末子(1)（☆小説）

編集後記

ゴットフリート・ケラー
伊藤武雄訳

70 3

銀価の変動と日本資本主義―綿糸紡績業に関する一考察―

正木 一夫 3 3

10

相良 守峯 12 3

秋山 英夫 14 3

岡崎 初雄 17 3

C.F. マイエル 20 3

山口四郎 21 3

菅原 政行 22 3

菅原 政行 25 3

カロッサ 26 3

手塚富雄 27 3

藤森秀夫 28 3

西 義之 31 3

早川 一郎 34 3

森 正夫 43 3

小竹 文夫 46 3

立野 紀代 50 3

半井 布文 53 3

青野 忠雄 56 3

とばり・まさみ 58 3

大畑 末吉 60 3

下出 積与 62 3

65 3

69 3

64 3

61 3

60 3

61 3

60 3

60 3

60 3

60 3

60 3

総合科学としての哲学

リルケ・ロダンをめぐって

戸頃 重基 11
森 晋六 16
山田 昭夫 23
若林喜三郎 31
大沢 衛 36
米村 桂子 42
森田 素夫 48
西田喜代司 50
小林 一雄 53
中沢 浩二 54
西方 正英 56
能沢 一郎 76
編集後記 84

嘉村礒多論序説「業苦」の成立とその意義

銭屋五兵衛とその時代

泉野つれづれ草(一)

第九期金曜文化講座・最近の科学芸術開講

菊のカーテンの彼方―宮廷物語―

東のたより・北のたより

十五日会のことども・東京

文芸活動の展望―北海道―

背徳の倫理(☆詩)

十等星(☆詩)

堕胎(☆小説)

孔雀の頃(☆小説)

書評「反時代的考察」

編集後記

十二月号(第五十九号) 昭和二十五年十一月三十日発行

郷土作家特集

まえがき

年譜

徳田秋声について

犀星素描

深田久弥論ノオト

藤沢清造のこと

島田清次郎について

加賀耿二の作品と郷土

西村 通男 5
川口 久雄 10
西 義之 16
杉森 久英 22
中村喜久男 26
中島 良一 31
編集後記 34

森山啓覚書

鏡花世界の美学

加能作次郎小論―大正期作家の宿命―

菊のカーテンの彼方(2)―宮廷物語―

どぶろく物語(☆小説)

バーナード・ショウ

レーゲル・アムウィン夫人とその末子(一)

ゴットフリート・ケラー

編集後記

沢木 欣一 35
谷口 陸男 40
小松 伸六 45
米村 桂子 51
松下 雅夫 56
北村 喜八 73
伊藤武雄 74
編集後記 82

一月号(第六十号) 昭和二十五年十二月三十日発行

盲女年譜(☆小説)

悪い季節(☆小説)

露草生(☆短歌)

地方文学管見―小説と日常生活―

雪、午後(☆詩)

随筆特集

兎の角論

万華鏡

正月・父・酒

スタイル論以前

朝風先生追慕記

七尾の作家・藤沢清造のこと

言語と周辺―兎と兎によせて―

電影漫録

生態学的断片

反古漫筆

ふかぬいしろ 34
黒田桜の園 36
市村 新 38
野村 広 40
岡部 文夫 42
横川 巴人 44
岩井 隆盛 45
窪田 敏夫 47
益子 帰来也 49
紙魚廻舎守人 51
編集後記 52

泣き方のむつかしさ

シヨオのこと―「泉野つれづれ草」②―

詩集カムラン抄

アメリカ便り

シールズの来たころ

菊のカーテンの彼方(3)―宮廷物語―

死の抗議―盛口澄江の上申書―

青春壊滅

新刊書評

レーゲル・アムライン夫人とその末子(3)

編集後記

南出 勉

大沢 衛

よしだまこと

佐伯 彰一

岩崎 二郎

米村 桂子

小森 六郎

小松 伸六

伊藤武雄訳

ゴットフリート・クラ

二月号（第六十一号）昭和二十六年一月三十日発行

英文学特集

巻頭言

ハムレットの場合―時代の関節がはずれた―

十七世紀英詩抄

ウワズワスの詩境とその展開

ハーディの小説の自然と人

ハックスレイの目

孤独・エリオット「カクテル・パーティー」小論

ティー・エス・エリオット覚書

ロンドンの闇に咲く花

英国映画と英文学

ラファデオ・ハーン先生の追憶

4 5

松本文之丞

大沢 衛

大久保純一郎

滝山 季乃

甲斐 貞信

上田 和夫

竹友 藻風

塚本 貞二

大沢 衛

岸 重次

「裸者と死者」の翻訳について

エミリー・ディッキンソンについて

書評

宮廷物語(4)菊のカーテンの彼方

新刊紹介「反時代的考察」「マリイ・アントアネット」

鉄のカーテンの彼方

死の青春

コント特集(☆「昇天」岩本隆介「冬の温泉場にて」小林敦子「お

軽来ぬゆえ」鈴谷友長「貸間」荒木友路「いかがです」梅木

宗一「失われた青春」小竹三千代「兎間答」山本さとし「女

の手」高田五郎「空洞」北武史「少年と女」切通東一

片隅の人々(☆小説)

編集後記

三月号（第六十二号）昭和二十六年二月二十八日発行

黒人教育者ブーカー・T・ワシントン

エドガア・ポー詩論について

平安時代の美人・醜女・妄

馬鹿について

牢人の文学

作文・でんしゃをみてから他

主婦としての宮本百合子

藤村をめぐる二人の女性

独歩の娘と私

最果ての啄木の愛人

藤沢清造聞書

藤沢清造先生・追憶記

梶 圭之助

道山 恵利

米村 桂子

武知 仁

小森 六郎

川端柳太郎

大沢 衛

小松 伸六

赤井 米吉

上田 彦次郎

下出 積与

ジャン・パウ

よしだまこと訳

密田 良二

青江 高雄

氷見 喬

横川 成子

小松 伸六

相川 竜春

岡部 文夫

47 49

44 47

43 44

40 43

35 40

30 34

アメリカ便りーエリオットの講演についてー	佐伯 彰一	50
新刊評・日本文学講座II古代の文学後期		52
雪の胸像(☆詩)	加賀美 喬	53
兇悪な一つの意思・満州終戦前後	武知 仁	54
笠置芸術(☆絵と文)	林 健造	58
小説月評	XYZ	60
ふるさと新聞ー正月の夢ー	中村 勝男	64
登山ースポーツ雑感ー	木谷 正治	65
書評・オスカア・ワイルド選集(一)他		66
無言歌(☆小説)	西 義之	67
編集後記	小松 伸六	69
		85
		86

四月号(第六十三号) 昭和二十六年三月三十日発行

人口政策からみた産児制限問題	三国 一義	4
黒人教育者(下)ブーカー・T・ワシントン	赤井 米吉	10
田園の息吹(☆詩)	浮田 広英	14
フランス趣味の変遷について	宮川 剛	15
聖なる憧憬		20
二人の伊藤武雄氏往復書簡	金沢大学・伊藤武雄 名古屋大学・伊藤武雄	22
父と子の青春ー「七人」時代の回憶	吉田白甲・孚	27
書評・「人間の絆」他		36
ルポタージュ特集		37
宮廷物語(5)菊のカーテンの彼方	米村 桂子	38
凶悪な一つの意志・鉄のカーテンの彼方	武知 仁	44
学生アルバイト白書	越場 二郎	48
水源地帯をゆく	木谷 正治	51
金沢大学風景(☆絵)	林 健造	55

ロシアの印度学	橋本 芳契	56
追想・結氷の漢江	西村 公鳳	59
晩年の岸先生	谷口 陸男	60
見はてぬ夢(☆詩)	堀口 太平	61
囲炉裏(☆詩)	堀内助三郎	62
心(☆詩)	丹羽 玲子	63
小説月評		64
懸賞小説選衡結果発表	森山 啓	68
風と少女(☆小説、佳作一席)	岩倉 政治	73
藤沢清造について	太田 順子	72
編集後記	柿谷 恒雄	91
	小松 伸六	92

五月号(第六十四号) 昭和二十六年四月三十日発行

近代文学特集	伊狩 章	4
岩野泡鳴・ドンキホーテの意味	西村 通男	11
田山花袋論	沢木 欣一	16
写生文派と自然主義	窪田 敏夫	20
国木田独歩ー見知らぬ人ー	藤田 福夫	24
塚木の詩の展開	野村 広	29
国字問題の一断面	毛藤松声居	34
ごりという川魚	松井 益子	39
安田兄弟のこと	穴戸 淳介	41
芋掘り	原 友夫	42
六足買った靴下を五足はきながら(☆詩)	高井 一子	43
女子学生記	永見 克茂	46
昏い意識の果て(☆詩)	正宗 巖敬	48
兄弟姉妹ー兄白鳥のことどもー		49

竹のカーテンの彼方―華北老朋友記―	柴田 三郎	50
小説月評	Y X Z	55
馬鈴薯(☆小説)	島田 三郎	59
編集後記		80

六月号(第六十五号) 昭和二十六年五月三十日発行

アダム・スミス「国富論」の思想的前提	戸頃 重基	4
世相と犯罪	岩崎 二郎	11
作文	10、17、27、59、	62、66
偽書とプチブル―「極光のかげに」批判―森下 幸雄		18
加賀能登の古い民謡について	川口 久雄	21
日本映画女優論	田中 武	28
宮廷物語(完) 菊のカーテンの彼方	米村 桂子	33
春の立山印象記	藤井 智瑛	38
ふざけた夢(☆詩)	密田 靖夫	42
ある開業医の感想	坂本ひろし	44
秋声さんとダンス	黒田桜の園	46
蒼虬と梅室	宮下 藤雄	47
県営アパートあれこれ	岩田 三郎	49
在沢十二年	松本 金寿	52
あるPTA	吉井 和夫	53
「じゅうぶん」に「十分」です	野村 広	55
凶悪な一つの意志・鉄のカーテンの彼方―満州終戦前後―	武知 仁	56
書評「恋人ロッテ」「仮面の告白」他		60
映画月評		61
小説月評	X Y Z	63

愛憎の行方(☆小説)	西方 正英	67
編集後記		84

七月号(第六十六号) 昭和二十六年六月三十日発行

レヴィット「ウエーバーとマルクス」批判	森 正夫	4
釈迦空論序説	西村 通男	10
作文	18、30、33、	38、71
書評「地方特殊産業の構造」		19
学生特集		
現代学生論Ⅱアプレ学生の抗議Ⅱ	小林 俊彦	20
新しい大学について	斎藤 純一	24
若き世代は叫ぶ・垂直的抵抗は始っている	畠中 茂男	31
抱月試論・覚え書的に	山田 昭夫	34
新刊紹介「ヨゼフの誕生日」他		39
ミシンのふめない小駒子さんへの手紙	安井 二郎	40
女子学生記に应えて	沢野 清尚	42
名を学生というか(☆詩)	埜 五章	44
「暴力の街」敦賀	長田 喬	45
「奥の細道」随行記	竹内 昭	52
高校生は映画が大好き	南出 勉	54
大学教師の経済白書―清貧記―	ふじるとしあき	56
濁貧記―田舎雑文書きの弁―	小松 伸六	58
金沢大学風景(☆絵)	林 健三	63
安らかな眠りのために―宮本百合子さんの死をおくるにあたり―	増村外喜雄	64
(☆詩)	吉井 和夫	66
夏ひらく・白山への郷愁		67
小説月評	X Y Z	68

坂(☆小説)
沓(☆小説)

津田 喜典 72
川端柳太郎 75
76
85

八月号(第六十七号) 昭和二十六年七月三十日発行

もう一人の「異邦人」	平田次三郎	4
カミユの「異邦人」に就いて	原 健忠	14
孔子雑談	駒田 信二	17
日本再軍備論——軍事記者の観測——	坂本七輔抄訳	20
近作(☆俳句)	沢木 欣一	23
鎖夏随筆特集		
馬鈴薯とアイスクリーム	宮田 栄	24
東京と金沢	吉田 六郎	26
研究室漫語	益子帰来也	28
ジョセフ・フーシェをよみて	松山 武夫	29
浪花巷談	鈴木 正治	31
職業野球あれこれ	宮田 正男	33
陶工寸感	滝口 加全	34
鏡花の思い出(☆対談)	細野 燕台	36
わが饒舌	深田 久弥	43
お芙美さんの文学	小松 伸六	46
読者諸賢と会員に訴う	編集部	50
小説月評		51
骨肉抄(☆小説)	加藤 勝代	55
編集後記		80

九月号(第六十八号) 昭和二十六年八月三十日発行

ボスについて——政治家解剖——	秋保 一郎	4
ペーター・ヴーストの体験——失われた子——	高橋 憲一	11
エリオット理論による歌論の試み	広田 好	15
戦える女(上)——福田英子(景山)について——	向山 寛夫	20
選ばれた人	佐藤 晃一	24
『暴力の街』敦賀(続)	長田 喬	26
書評「白い牙」	中村喜久男	32
小説月評——八月号——		33
卯辰山よさようなら(☆詩)	小林 一雄	34
東京バクゲキ特集		50
東京と富山	岩倉 政治	36
上京せざるの弁——撮影所人種のことども——	鈴木 紀子	39
東京の奴等と田舎のあつら	杉森 久英	41
東大の病患者	村田 治	44
放棄の精神——わが饒舌(二)	深田 久弥	47
俗情の中(☆小説)	西 敏明	52
からす(☆小説)	中村喜久男	61
或る脱走兵の話(☆小説)	加藤 勝代	70
編集後記	小松 伸六	80

十月号(第六十九号) 昭和二十六年九月三十日発行

秋季随筆特集		
ヨローッパの苦悩	岡 良一	4
秋の残像	長岡 博男	5

へいの中から	保古	7
金沢は文化の谷間か	小沼 文彦	8
戦後の作家たち	伊藤 武雄	10
笑えない笑い	芦田 高子	12
鐘的温泉	田島 秀夫	14
富士登山	岡野 正策	16
ミスターキリスト	大場 清	18
檻の中―続・鉄のカーテンの彼方	武知 仁	19
クサイ島―泉野つれづれ草	大沢 衛	21
アメリカ文学の新人	佐伯 彰一	24
戦後のドイツ文学	マルチン・ミッテルラッハ 佐伯 彰一訳	30
道化師(☆俳句)	黒田桜の園	34
講和に訴える悲願達成断食隊隊記	川島 重男	36
たわけとばかはどう違うか	ジャン・パウ 吉田 孚訳	41
エリオット理論による歌論の試み―承前―	広田 好	46
早春賦(☆詩)	ホーフマン・スタイル やまぐち・しろう訳	50
アメリカ留学アルバム	大島 仁	52
戦える女(下)―福田英子(景山)について―	向山 寛夫	55
金沢と北国文化をどう観るか(☆アンケート、回答者―大沢衛・		58
前田純敬・岩倉政治・小谷剛・渡辺一夫・河盛好藏・中野重		
治・杉森久英・小沼文彦・室生犀星・山岸外史・荒正人・伊		
藤整・上林暁・徳田一穂・原健忠・中村地平・中川善之助・		
十返肇・中谷宇吉郎・阿川弘之・駒田信二・森山啓)		
わが饒舌(三)	深田 久弥	59
小説月評・九月号	XYZ	65
追憶の記(☆小説)	宮永 長治	69
編集後記		71

十一月号(第七十号) 昭和二十六年十月三十日発行

講和の重量と国民負担の構図	村井藤十郎	4
日本の社会政策の成立	石原 善龍	9
ソヴエト心理学の展開	倉橋 克	13
チャタレイ夫人と判事	小山 市次	18
光をかかげた女―津田英子伝(上)―	向山 寛夫	21
正岡子規と文学運動	渋谷 饒	26
東京と熱海(☆短歌)	上山 南洋	29
ルポタージュ特集		
国立療養所白書	霜井 淳	30
日雇・自由労働者の人々	中村喜久男	35
認定講習を観る	中島登喜男	38
南氷洋上のアルバイト	小松 鍊平	40
書評「宇治拾遺物語」上巻		45
椎の実(☆詩)	砂川 流	46
「山芋」に答える	上田 千之	48
小説月評・十月号	XYZ	51
媒酌結婚(☆小説)	山本 国光	56
秋の像(☆小説)	城 惠爾	67
編集後記	小松 伸六	80

十二月号(第七十一号) 昭和二十六年十一月三十日発行

特集―生きている封建の遺制		
封建遺制の問題	森 正夫	4
農村・家・女性	横山 亨	7

私の村の封建遺制
オヤジの研究―福井県坂井郡細呂木村指中の場合―細川 玖治 11
14

浦島説話の展開

松岡 詮治 15
18

日本映画男優論

高田 穰 19
22

アメリカだより・講話会議傍聴記

宮崎 孝 23
27

ニューヨークのクリスマス

村上 賢三 28
32

爽秋(☆俳句)

坂本 七輔 33
34

光をかかげた女―津田梅子伝(下)―

西村 公鳳 33
35

新雪・十月歌抄

向山 寛夫 36
38

書評「安藤一郎詩集」「湖畔」「欧亜の旅」

22、
27、
39

大和路(☆詩)

竹島 良蔵 40

「輪舞」の舞台裏―シュニツラーをのぞく―

山下七志郎 41
43

文芸綺譚

三十棒 44
45

小説月評・十一月号文芸誌

XYZ 46
48

映画評

永森 正秋 50
51

花火(☆小説)

永見 喬 52
59

萩の門(☆小説)

樋口 昭子 60
68

ある心の顛末

穴戸 淳介 69
79

編集後記

小松 伸六 80

一月号(第七十二号) 昭和二十六年十二月三十日発行

二・三月合併号(第七十三号) 昭和二十七年一月三十日発行

新年の鐘(☆詩)

マイエル 山口四郎訳 1

特集危機意識の超克

大沢 衛 4
7

危機と文学

鬼頭 英一 7
11

可能性喪失と実存

80

不能の世紀
隨筆特集秋山 英夫 12
16

象の解剖

宮田 栄 17
19

人間よ腹を立てるな!

伊藤 武雄 19
21

陶々焉

浅野 廉 21
23

金沢での文楽

沢木 綾子 23
25

郷土の新しい動物古い動物

熊野 正雄 25
27

私の行進曲

市川 渡 27
29

近頃の同人雑誌―新潮十二月号の新人―

中村喜久男 29
30

邪魔者は殺せ

甲斐 貞信 30
32

自殺手帳から

安藤 茂雄 33
35

鑑識課のプロファイル

宮永 長治 36
39

わが饒舌(四)

深田 久弥 40
43

社会党大会まかり通る

小林 俊彦 44
47

直木三十五と私

野村 廣 48
50

菅専助について

川口 久雄 50
53

拐帯記(☆小説)

西 敏明 54
63

動物記(☆小説)

西 義之 64
71

編集後記

小松 伸六 72

杜宅(☆小説)

西方 正英 4
13

ゆくえ(☆小説)

永見 喬介 14
20

けもの宿(☆小説)

中村喜久男 21
31

並木重郎さんのこと

小松 伸六 31

危機と文学(下)

大沢 衛 32
35

朝鮮事件と中国文芸界

鈴木 直治 36
37

国語政策を確立せよ―国語教育の危機―
冬の坂(☆俳句)

父赤彦と母

未亡人会入会

工芸図案の錯覚

窯辺随想

映画特集

フランス・映画と人間描写

アメリカ・健康な感傷

イタリア・映画漫歩

日本映画あれこれ

イギリス・娯楽と風格

あとがき・編集の四年間

四月号(第七十四号) 昭和二十七年三月三十日発行

社会の動きについて	井森 陸平	4	8
現代絵画における抽象の問題	吉田 彰一	9	11
当用漢字論―小泉信三、谷崎潤一郎氏に答えて―	和田 亮二	12	16
能登の山村	斎藤 晃吉	17	21
随筆特集			
素材の心理―セザンヌ以後―	北村 三	22	24
妙成寺の良さ	玉井 敬泉	24	27
寒暖計	伊藤 亀雄	27	29
女剣劇	浅田 二郎	29	30
わが愛猫記―木谷実氏の思い出―	横川 成子	30	33
井蛙管見記	吉田 圭蔵	33	36

同人雑誌の現状
ルポタージュ特集

石川県教育委員会の内幕

新版モンテクリスト伯(1)

張赫宙の近作「嗚呼朝鮮」の主人公をめぐって

作品と読者

創作か模作か―安部公房氏への公開状

遺伝への関心

米光判事の死

冬枯れ(☆小説)

破光(☆小説)

編集後記

五・六月号(第七十五号) 昭和二十七年五月三十日発行

中原中也論	西田 正夫	4	11
D・H・ロレンスの初恋	甲斐 貞信	12	18
陶芸家バナアド・リイチの想い出	森田 亀之助	19	22
総合雑誌の行方	河上徹太郎	23	26
良人久弥のこと	深田しげ子	24	26
三等教師小松伸六	小松三千代	26	28
結婚その他	西 義之	28	31
色の記憶服装	米田 重博	31	33
魚と菜	宮下 藤雄	33	34
現代美展漫歩	柴田 三郎	34	35
東西訳詩抄	鈴木 主水	36	38
校正論	和田 亮二	39	42

白井 吉見
 36 | 37 |

毛藤 文男
 38 | 43 |

光明寺孫太郎
 44 | 49 |

黄 文冒
 50 | 53 |

大久保純一郎
 54 | 58 |

鈴木 正治
 59 | 62 |

小松 伸六
 62 | 63 |

上田 千之
 64 | 67 |

加藤 勝代
 68 | 76 |

M・O
 77 | 78 |

六七

エリオットの課題 (I)	広田 好	43
青いひとみ	大沢 衛	52
白い影 (☆小説)	小舟 十三	65
硝子の屋根 (☆小説)	山本 国光	71
編集後記	M・O	82

七月号 (第七十六号) 昭和二十七年六月三十日発行

エリオットの課題 (2)	広田 好	4
カフカとリルケーその理解のための前提	秋山 英夫	14
石川県議会の内幕	荒谷余十勝	19
九学会連合奥能登調査随記	稲垣 年雄	24
新刊紹介・ハーディ「帰郷」	大沢 衛	29
現代作家論 1 堀田善衛論	西 義之	30
文芸時評・「野火」と「真空地帯」	吉田 孚	38
懸三宜郎の死 (☆小説)	宮野成太郎	42
一幕喜劇・毀れ人形	村田 育司	52
九谷皿 (☆小説)	城 惠爾	62
驢馬 No. 3 評	M・O	78
編集後記	M・O	80

八月号 (第七十七号) 昭和二十七年七月三十日発行

特集私の八月十五日 (☆執筆、谷口陸男・安藤孝行・伊豆蔵節子・秋山英夫・岡部文夫・岩倉政治・加藤勝代・西義之・米田重博・芦田高子・宮川靖・酒井品子・西村通男・鈴木紀子・小竹武夫)	広田 好	17
エリオットの課題・連載第3回	好	22

海外新刊紹介	秋山 英夫	24
怖ろしき美・リルケ理解のために	小松 伸六	30
加能文学碑除幕式のこと		37
海外トピック・米映画界		37
随筆三題		37
表情	高橋 勇	38
新教育の先駆者・桜井裕男先生	岡野 正策	39
麦秋	細見 綾子	42
現代作家論 2 大岡昇平論	西 義之	44
ユネスコ短信 2		51
白スヶ舳倉島紳士録	内海 伸平	52
舳倉島小感	深田 久弥	61
石川県下警察界の内幕	I・G 生	63
本と映画から・ヒロシマ、ナガサキ		66
つゆあけ (☆小説)	中村喜久男	67
書評「私の見た英国」		79
編集後記		80

九・十月号 (第七十八号) 昭和二十七年九月三十日発行

エリオットの課題・連載第四回	広田 好	4
日本のオペラ事始	吉田 白甲	10
旅三題		14
津軽海峡を渡る	伊藤 武雄	15
アメリカ雑誌記帳	清水忠次郎	21
夏の旅日記	大樋 年郎	25
封建社会への郷愁―奥能登調査の思い出	若林喜三郎	27
現代作家論 3 私小説作家論	西 義之	33

私の東京地図1浅草感傷記	内海 伸平	38
中共解放地区をゆく	吉井 信義	46
鉛筆（☆小説）	吉藤 久	52
うしろ姿（☆小説）	松下 雅夫	57
猫の話（☆小説）	宮永 長治	69
映画随想（☆転載）	高見 順	75
編集後記	M・O	76

十一月号（第七十九号）昭和二十七年十月三十日発行

私と再軍備・特集（☆執筆、三由信二・南出勉・永見喬介・橋本芳契・松井笑子・森正夫・吉田他吉・市村新）	広田 好	4
エリオットの課題―連載第五回―	中村喜久男	10
一向一揆における義尚と政親	逸辺由太郎	17
石川県美術界の内幕	藤田 福夫	27
越中より加賀へ―新「奥の細道」紀行抄―	荒 正人	31
万葉の「志乎路」を越えて	西 敏明	37
海外文芸展望	竹沢 基	40
MR談議	満 公助	42
絵と文	黄 文昌	46
女心羽のように―上野宝ホテル心中事件から―	上田 千之	53
春窮（☆小説）	加藤	58
生活地帯（☆小説）		71
編集後記		72

十二月号（第八十号）昭和二十七年十一月三十日発行

橋の下（☆小説）	西 敏明	4
		13

隠亡譚（☆小説）	中村喜久男	14
エリオットの課題―連載第六回―	広田 好	24
マルテの手記について	静馬 冷樹	30
今年の美術展	大田 耕治	41
秋の白山越え	藤井としあき	46
座談会・地方生活と文学（☆出席者、阿部知二・深田久弥・大沢衛・小松伸六）		52
金沢風景二題	絵と文・堀 忠義	60
シグナル（☆詩）	和沢喜美枝	62
小説募集審査発表		65
浮草（☆小説）	関 とも	66
土人形（☆小説）	寄川 義雄	75
霧の中（☆小説）	葛原由希子	81
中国文芸展望	岡崎 俊夫	95
編集後記	加藤	96

一月号（第八十一号）昭和二十七年十二月三十日発行

新春随想	伊藤 武雄	4
から札の話	秋山 英夫	5
接吻しないで別れた話	窪田 敏夫	6
新春賦	水上 一久	7
異常時	宮田 栄	8
恩師の死顔	青木 治朗	9
転職綺談	益子帰来也	10
ある男と気合術	宮川 靖	11
酒歴	末広 恭雄	11
魚二題		

エリオットの課題―連載第七回―
最近のフランス文学

中島敦の文学

絵と文

金沢市役所の内幕

私の立場は大衆にささえられている―新教育委員の弁―

舞台の青春―演劇人の追想―

新刊紹介・「酔興悲歌」他

宗和忌のことども

私の俳句遍歴(一)

火の島まで―九州文学紀行―

冬のうた(☆詩)

犠牲(☆俳句)

住居について(☆小説)

編集後記

終刊号(第八十二号)昭和二十八年四月三十日発行

女性随筆特集

湯の町から

病ある人に

家の中

寒菊

日かげ

ひみつ

千羽鶴の幻想

雛祭りによせて

北国文化の思い出
蠟燭は自らを燃やしつくした―廃刊のことば―

忘れがたき人々

駄文

「北国文化」懐古

能登講演旅行

かく在りき

「北国文化」の創作について

ある思い出によせて

終りに

整理者

天草まで―続九州文学紀行

私の俳句遍歴(二)

漫画の功德

ある雑誌のこと

投書

麦と開拓団(☆小説)

神様はいらない(☆小説)

貧しい旅(☆小説)

雑誌と八年

編集後記

七〇

伊藤 武雄 22
小松 伸六 24
深田 久弥 28
谷内 陸男 29
宮田 栄 30
加藤 勝代 31
西 義之 32
西 敏明 35
大沢 衛 36
園部六三郎 38
内海 伸平 40
細見 綾子 48
秋山 英夫 59
清水 兼男 60
浜中 志岐 62
宮野茂太郎 64
上田 千之 72
山本 国光 77
園印生 91
小松 伸六 92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

22
24
28
29
30
31
32
35
36
38
39
47
58
60
61
63
71
76
90
91
92

平成元年九月十四日受理